

平成26年10月6日

浜田市議会議長 原田 義則 様

会 派 創風会

議員名 布施 賢司

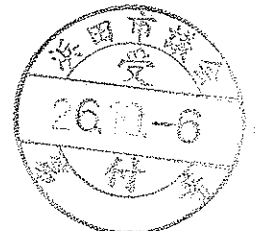


調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成26年8月18日～8月20日
2. 視察又は訪問先
 - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファーム シュシュの取組
内容 ① 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
② 農家民泊（陽だまりの宿）
 - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば
内容 ① グリーンツーリズムと地域連携について
 - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)
内容 ① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
② 農家民泊（つばき坂）
 - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館
内容 ① 文化財修復と和紙の役割について
3. 参加者 串崎 利行、 野藤 薫、 上野 茂、 飛野 弘二
布施 賢司、 平石 誠、 渋谷 幹雄、 西田 清久



4. 各視察先の研修内容

【農業生産法人 有限会社シュシュ】代表取締役 山口成美氏

〈1〉視察に至った経緯

浜田市は豊かな自然に恵まれ、様々な農産品や海産物が有ります。

この資源を有効に活用して、さらなる交流人口の増大と地域の活性化を願い、『地域農業の活性化と後継者の育成』を目指している おおむら夢ファーム シュシュの取組みを視察した。

〈2〉研修内容

① 施設見学[長崎県大村市弥勒寺町486]

「おおむら夢ファーム シュシュ」

シュシュとは フランス語で「お気に入り」

山口成美氏と意見交換（過去、しまね田舎ツーリズムの講師でもある）

園内のぶどう畑のレストランで昼食、平日にもかかわらず多くのお客様で賑わっていました。レストランはバイキング形式、大人 1300 円の価格設定で食べ放題、(70 歳以上は割引有) 地域の様々な食材を提供し創意工夫が見られた。また、レストランを借り切って、大村湾を一望できるレストランウエディングが出来るようにしている。

地産地消、農業の 6 次産業化による地域の活性化を目指して、周囲には各種収穫体験施設（農業塾、ぶどう狩り、梨狩り、いちご狩り）や農林水産物直売所（新鮮組）、パン工房、洋菓子工房、シャーベット工房など、若者や家族連れを意識したオシャレな建物が連なっている。

山口氏は大村市農協で営農指導員をしていたが、平成 2 年農協を退職し専業農家になった。高齢化による後継者不足、農地の荒廃への危機感から地区の有志 40 名と「福重地区農業農村活性化協議会」を設立、その中の 8 名の専業農家で、ビニールハウスの小さな農産物直売所「新鮮組」を始めた。

すべての交流人口拡大に向けた仕掛け作り、すなわち「楽しい事の提案」を

様々なアイデアで、常に前向き、モノを売るのではなく夢を売る、“年中夢求”と熱く語って頂いた。

- ② 農家民泊（陽だまりの宿）は、キュウリを主としてお米や野菜を栽培しておられ親戚の家に帰って来たような宿と感じました。宿泊者用に納屋の二階を一部補助金で整備してあり、午後 10 時までは宿泊者をご相手する決まりがあるみたいで、会話をいろいろ楽しみました。その中で、お米を従来通り農協に卸すより、直に介護施設等に卸すルートを確立する事で、所得単価を上げることが出来た話や、国内、国外の体験農家民泊者を受け入れることにより、より多くの人たちとの出会いがある事の素晴らしさを語っておられました。

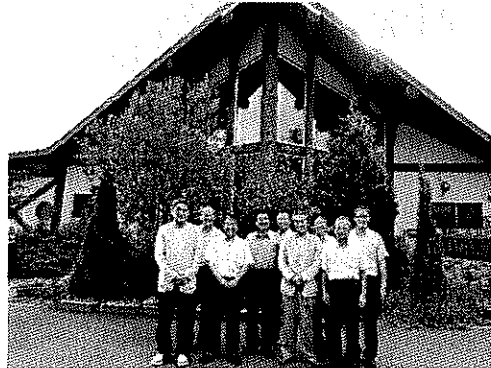
〈3〉所感（まとめ）

軸足は農業（1次産業）である事を忘れずに、農産品と加工品（2次産業）の合わせ技で、若い人たちのアイデアや工夫を販売やサービス（3次産業）に出せるように教育し、掛け算の6次産業を目指し実践しておられた。

ものを売るのではなく夢を売ると言われるように、商品のネーミングなどもひとひねりされてイメージを大切にしておられ、商品ラベルの文字やパンフレットなどにその思いが現れていました。この視察では農村の現状は、高齢化、後継者不足、農地荒廃であるが、自分たちの手で観光農業、感動農業、希望農業に代えていくんだと言う思いを形に表して、実践している山口氏の行動力には驚きました。当市も行動力のあるリーダーが現れることを期待し、応援したいものです。



ぶどう畑のレストラン



おおむら夢ファーム シュシュ

【球磨郡山江村】 山江村 内山慶治村長 山江村議会 松本佳久議長
山江グリーンツーリズム会長 川内美千代氏

〈1〉視察に至った経緯

九州の人吉・球磨地方はグリーンツーリズムが盛んであると聞き、海山自然豊かな石見地域・浜田市の参考になればと最初に山江村の取組を視察しました。

〈2〉研修内容

① グリーンツーリズムと地域連携について

時代（とき）の駅むらやくば（旧山江村役場庁舎、国指定登録有形文化財）

山江村は現在、人吉・球磨グリーンツーリズム協議会に参加しているが、地域活性化に平成4年ボンネットバスを復活させ、各地からボンネットバスの大会を開催し地域活性化を図った。その後、グリーンツーリズムで特産品の栗を収穫する農業体験や、栗の加工品作りなど交流人口の増大を図った。

平成15年第1回グリーンツーリズムネットワーク全国大会（熊本）参加をきっかけに、地域からの様々な体験メニューが提案された。

また本場イギリスのグリーンツーリズムを研修する為、村から3名派遣した。

農業体験、収穫、加工の中で地域の食への関心も高まり「食を通じた交流」も始まった。

旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」レストラン“やまえのまんま”として改装オープンして、「食と健康」を事業コンセプトとしながら、季節の素材を使った料理でのおもてなしを楽しんでいただく。

〈3〉所感（まとめ）

ちょうど昼時でしたので全員でレストラン“やまえのまんま”で自慢の料理を頂ながら関係者の方達と取組についてお伺いいたしました。インターネットテレビの録画もありましたが、村長自ら気さくに話していただき、取組の真剣さを感じたところです。山江村で地域活性化のリーダーシップを取って

いるのは内山村長（元役場職員）であり、松本議長もバックアップしているとのこと。川内会長からは、山江は山と川しかないけど、それが良いとこだと気づき、磨き、それを発信する事が大事であり魅力に繋がると言う事。また、大金だけを稼ぐのではなくて、小金を稼ぐ事も大事なんだよと言っておられました。名産品は栗であり、栗を使った商品が沢山ありました。

当日は関東の女子大生2名が意見交換に参加、彼女達は山江村は第二の故郷だと話してくれました。（大学ゼミのグリーンツーリズム体験研修者受け入れ）

そこに住む人と心の触れ合いがこういった場所や体験を通して出来れば、地域コミュニティが不足がちな現代社会において、一つの「まちづくり」のヒントや交流人口の拡大、定住対策に繋がるのではないかと思います。



村長、議長、大学生他



時代の駅むらやくば（レストラン）

【熊本県人吉市】人吉・球磨グリーンツーリズム協議会（人吉市役所）

農家レストランひまわり亭（本田節氏）と農家民泊

〈1〉視察に至った経緯

九州での先駆的な取組と言われる人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は10市町村による協議会である。この取組や、中心的な存在の本田節さんのお話を聞く事と、農家民泊によりグリーンツーリズムの目的、「豊かな自然、歴史、文化などの多面的な資源を活用しながら、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」を視察研修した。

〈2〉研修内容

① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」

農家レストラン『ひまわり亭』代表 本田 節 氏

最初に人吉市役所において人吉・球磨グリーンツーリズム協議会事務局の山本次長より、人吉市の説明と協議会の今日までの経緯と概要説明を受けました。この協議会の設立経緯は、平成15年より人吉市を含む10市町村が構造改革特区「森林の郷 農林業げんき特区」としての認定を受けた事を契機に、都市農村交流事業への取組がなされた。この事業では、行政では苦手な数字や分析などは、民間にお願いしているからこそ、上手くいっている所があるともいわれた。

平成17年度にはこの取り組みに参加した農家の方を中心に「人吉市グリーンツーリズム推進協議会」が設立、農家民泊が始まった。

当初「田舎に泊まろう農業体験」として小学生の受入れをスタート、川遊びや虫とりなどで都会の子供達が感動する姿を見て、豊かな自然を再確認する事になった。

この農家民泊の為の研修の過程で、それぞれの地域と特色有る料理を持ち寄り、食の交流会（研修）を、ひまわり亭で開催する事になった。

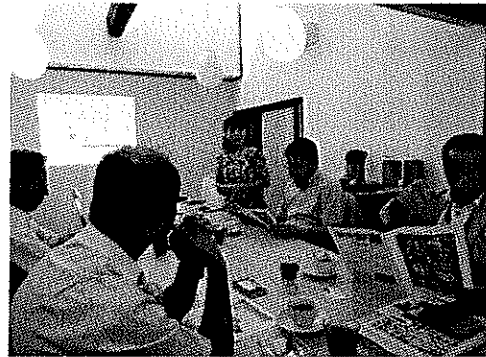
市役所にて説明の後、ひまわり亭に移動し本田 節氏より話を聞いた。

「ひまわり亭」は地産地消、食の交流拠点として立ち上げた。食、農を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理をテーマにしている。（ムラのかあさんのレシピ集）地域の高齢者の知恵が家庭料理に詰まっている。これがお金に、おこずかいになる。すると地域の中で自立出来る。ボランティアでは続かない。若いかあさんも参加したくなるし雇用に繋がるといった具合に怒涛のような、本田節氏の想いを聞く一方であったが、地域の魅力やそこに住む人の魅力がストレートに響いた研修で有りました。

② 農家民泊（つばき坂）では、宿へ続く坂にどっしり構えて迎えてくれたのは樹齢 200 年の椿でした。これが宿の名前の由来であり、時期が来れば坂一面に椿の花が落ちるそうです。おかみさんの料理には自家栽培の野菜や山菜が使われていて美味しくいただくことが出来ました。ご夫婦共々、夜が更けていく事を忘れて大いにお話が出来ました。また、朝早くから滝の名所（鹿目の滝）を案内していただいたご主人には感謝致します。初めて泊まった所でも何故か懐かしい気持ちにさせてくれた、温かいおもてなしは胸を熱くしてくれました。



人吉市役所にて



ひまわり亭にて、本田節氏

〈3〉所感（まとめ）

「地域の“食”を活かした交流による地域づくり」について「本田節^{ほんだぶし}」を聞き非常に引き込まれました。要はレストランをやるのではなく、地域をコーディネートするにはコア的な拠点が必要で、行政ではできない事を行政との連携でやる中間組織として、補助金なしで「ひまわり亭」を自ら立ち上げたバイタリティには驚きました。本田さんの言葉で一番印象に残っているのは、トップが代わる度に「まちづくり」は変わってはいけない。議会は議決権をもっている最大の「まちづくり」の要であるので、いろいろ学び行政と議会が「やる気」を出しなさいということでした。浜田市の場合もグリーン

ツーリズム協議会があり、地域資源を活かし交流人口の拡大や定住事案などの取組で評価を高めているところですが、市民の方も未だ知らない方が大勢いるのも現状ではないでしょうか。グリーンツーリズムの活動を円滑に進めるためには更にPRは必要であるが、9月議会に参考人招致で述べられた支援体制の陳情を真摯に受け止め、それを第一歩として、行政や議会は本気で応援していかなければいけないと思った。最後に今回初めて農家民泊を2ヶ所体験して、ホテルに泊まるより、たまには体験宿泊も人との出会いがより親密になる為、必要かなと思いました。

【福岡県 太宰府市】九州国立博物館 博物館化学科 渡部史之氏（案内役）

国宝修理装演師連盟 坂田理事長

〈1〉視察に至った経緯

ユネスコ文化遺産である浜田市三隅町の石州半紙は、国宝などの文化財の修復には欠かせない。

この度、会派視察の帰途に九州国立博物館に立ち寄り、修復の現場を視察し研修を行った。

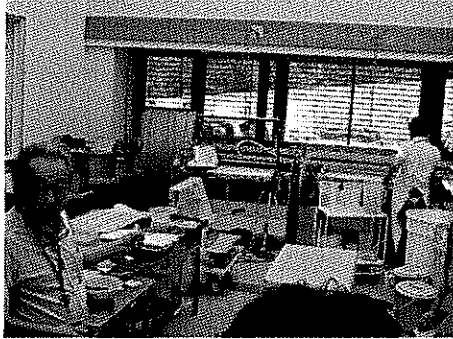
〈2〉研修内容

① 「文化財修復と和紙の役割について」

国宝修理装演師連盟 坂田理事長が、当日九州博物館の滞在されており、お話を聞く事が出来た。

修復現場は、気温や湿度の管理と、災害から文化財を守る為の、設計になっていて、普段は見る事の出来ないものでした。

また大学で文化財の修復を専攻している学生も、実習に来ていて、修復の各段階の説明を聞く事が出来ました。



坂田理事長と修復の現場



国宝修理装演師連盟の職員

(3) 所感 (まとめ)

文化財の展示品のチェックや長年の劣化などにより修復があるときは、たくさんのプロの人たちが関わり、搬入から仕上げまで、きめ細かい工程を踏んで私たちの前で展示されていることは、すごい事だと現場をみて初めて解りました。その中でも、文化財修復における石州半紙の役割については、非常に大切なものである事に関係者から伺い、その評価の大きさに感心し、改めて石州半紙を地域の宝、日本の宝として守っていかなければいけないと思いました。ミュージアムの文化交流展での見学では、3Dプリンターで本物そっくりの展示品を一部触ることが出来たのは今までにない体験であり、新しい展示の仕方を見たような気がします。

